

創立四十周年記念

友  
友  
友

学校法人山名学園

山名幼稚園

●目次

新園舎に夢を描く園児	2
創立40周年を迎えて	4
おもいで	9
新園舎建築までのあゆみ	50
はばだけ山名つ子	51
役員名簿	56
同窓名簿	58
先生の思い出	70
卒園児の思い出	72
大地に夢を描く園児	75
編集後記	76

# 創立四十周年記念

学校法人山名学園

山名幼稚園



園章

## おちかいのことば

わたくしは神様のことです。

わたくしは親神様の親心で、

毎日毎日のしくらしています。

ありがとうございます。

今日もなかまよく遊びます。

どうぞけががありませんように

おまもりください。

## 目 標

一、健康で明るくたくましい子

二、きまりを守りだれとでも遊べる子

三、自分のことは自分でできる子

四、ありがとうの言える子





理事長

諸井慶一郎

## 創立四十周年を迎えて

今日は餅まきがある。お金も一緒にまくそうだ。教会の庭で遊ぶ子供たちのうわさ話にワクワクして夕刻の棟上げを待ったことが淡彩画のように思い出される。昭和二十七年、小学三年の夏であった。そうして建ったのが赤いトタン屋根の園舎であって、以来三十五年、二千五百名の園児達の学び舎になってくれた。前の年に教会の神殿の屋根替え工事をした時に使った木材を再利用して建てられたもので、上等の建物ではないが、その役目を果たしてくれた長年の労心から御礼申したい。

当時は私の父が教会の会長をやっており、その発意で、青葉日曜学校から始めて、山名保育園、山名幼稚園となった。幼稚園と父の結びつきは私の脳裏に浮かぶが、教会の大二階で大勢の子供相手に裸の王様の話をしている日曜学校当時の父は鮮やかに思い出されて懐しい。

今年には山名幼稚園になって丸三十年というゆかりの年だが、丁度折柄余儀なき事情によってであるが園を神苑の外へ移転することになり、新園舎と共に新たな一歩を踏み出す意義深い年となった。

今回の移転については、教会の信者の皆様の真実を頂き、町の皆様のお心寄せを頂き、そのお蔭によって今日の姿を見るに至ったことを有難く御礼申すばかりであるが、今現在の私の正直な気持ちをお知らせ、園舎はほろでもこれまでのほうが園児のためにはずっと良かったということである。このことは賛同して下さる方も多いと思う。神苑にまさる場所はないのであって、そのことを思うにつけてもこれからは道路一本ではあるが神苑から外に出たのであって、この道路の隔たりを埋める工夫をこらさねば、と思う次第である。

## 四十周年に寄せて

四十周年、おめでとございます。

思えば、私にとりましては、あつと思う年月でした。

戦後の物心共に不足していた時、四代会長諸井慶徳先生並びに夫人春子先生の大きな親心より子供会が発足しました。日曜学校をして保育園の認可を受けるまでのお手伝い、又三十二年、保育園の最後の学期より現在までの永い歲月、その職責をにごしてきました。

初代園長が木製のすべり台に釘ののを見て、大事な他人さまの子どもに怪我をさせてはいけないよ、と指摘され、誠に申し訳なく恐縮したことは今でも忘れません。それ以来、小さなことでも心を配るよう心掛けてきました。園児の少ない時には遠くまで募集に出掛けたこともありました。より良い幼児教育と各地の研究会へ、又手弁当で朝早くから先生方と一緒に他園を参観したこともありました。今はなき常盤幼稚園長本間菜子先生の講演、住吉幼稚園長宮沢先生に絵の見方、指導法、国立国語研究所の村石昭三先生に「ことば」について、宝蔵寺先生に「しぜん」についての保育実技、又体育指導も東京から講師をお願いし、数える限りがありません。子どもたちの幸せを考え、先生方と共に真の幼児教育をめざし、一途に歩んできました。教会の屋敷内の幼稚園であり、四季それぞれの姿を見せてくれる松、楠、それに桜。素晴らしいお庭を遊び場とし、子ども達は本当に幸せであると思います。天理教のお話も聞いて頂き、その心を少しでも理解して頂きたく、又子ども達の今後の成人と御礼をかね父兄共々おちがえりも二十回を越えました。

神様の御守護はもとより教会の方々、特に御婦人方の陰のお力を基に御父兄の方々の御理解、御協力がなくては成し遂げられなかったことと思います。園の行事に、汗を流しての草とり、今はないプールの清掃等の奉仕作業、毎日の横断歩道の旗振り。本当にありがとうございます。年と共に成長してゆく子ども達にとって最大の幸せであり、これからもきっと神様がお護り下さることと思います。

この度は学法化し、園舎も新しく成り、子ども達がより安心して日々を過ごせるよう配慮して頂き、園の基盤を築いて下さった理事長の心を確かに受け止め、更に前向きに進んでゆきたいと思えます。

泣き虫を三年間続けた子、机の下に潜って出てくれなかった子、やんちゃな子、いたずらっ子等、今はもう立派に成人し、社会人として活躍し、又二世を連れて下さる方も沢山あります。この度の学法化、建築に非常なお力添えも頂きました。

立派な理事長を頂き、多くの実力のある卒園児又は御父兄、経験豊かな先生方に囲まれ幼児と共に過ごさせて頂くことは幸せであり、身に余る光栄でございます。誠に微力ですがよき先生方と共に、生涯教育の出発点である真の幼児教育を旨として進んでゆきたいと思えます。



園長

若林まさ子



袋井市長

湖東二郎

## 山名幼稚園四十周年に寄せて

・山名幼稚園の思い出

私のところでは三人の子どものうち一番上が山名幼稚園でお世話になりました。今から三十年余り前のことです。私は、その頃役場の一課長でしたが、戦後の復興という大事業に町をあげて取り組んでいた最中でもありました。また食糧事情も十分ではなく、無論幼稚園での給食もままならない頃でありました。役場の事務も今と違って手仕事で主で、毎日遅くまで多忙を極め、幼稚園の方は専ら家内まかせでありましたが、それでも運動会、バザーなど一―二回は覗いた気がいたっせ。

ところで私の家は代々曹洞宗で、それまで天理教会とは全く無縁と云ってもよいくらいでありましたが、長男がお世話になるようになってから、なんとなく教会を身近かに感ずるようになったことは事実であります。

教会の立たずまいは今も当時のままで、正面の長い参道の椽並木、そして西側一帯の深い松の木立と教会の大きな御社、その中で幼稚園は広い境内の一角に在って小さなものたちが集い楽しむ場としては正に最高だと私はいつも思っていました。ビチビチと明るい若い先生を真中に子どもたちは多勢の仲間と歌い走り、そして時々先生にあまえ、訴え乍ら自己主張する、山名幼稚園はそんな私たちの期待にいつも応えてくれた幼稚園だったと私は今でも思っています。

その山名幼稚園が今年四十周年を迎え、建物も近代的に立派になります。新しい園舎は教会の外へ建てられるとはいえ、御門の正面ですし、環境的には殆んど変わらないと思います。

近頃幼児教育の重要性が多くの学者から提言されておりますが、建物施設のみならず、環境の良さが幼児教育には欠かせない条件の一つだと言われております。

本市には、いま十一の幼稚園がありますが、うち私立は山名が唯一です。その山名幼稚園ではどの公立にも引けをとらない立派な幼児教育がなされております。全く有難いことであり、私は周辺の自治体に対しても、自信をもって自慢できる幼稚園であると常々思っています。

この度念願の学校法人の資格を取得し、装いも新しく出発することは大変おめでたいことであり、創立四十年という長い伝統に支えられた山名幼稚園が、今後市域の子どもたちのために、更に充実発展されますことを心から祈願する次第であります。

## 山名幼稚園四十周年を祝う

まずもって、山名幼稚園の四十周年記念をお祝い申し上げ、あわせて新園舎落成と永年の課題でありました学校法人化による幼稚園経営の出版をお祝い申し上げます。

今時、教育条件の整備と時代的要請によって、ますます幼児教育の重要性が叫ばれておりますが、貴園におかれましては地域の期待を担いつつ、すでに四十年前に青葉日曜学園として幼児教育に先鞭をつけられました事を思うにつけ、まことにその業績の偉大さを感動をもって賞讃せずにはいられません。

お聞きするところ、昭和六十一年度以来的までに約二八〇名の卒園者を輩出されているとのことですが、現在各界の第一線に活躍されておられる方々の中に「私も山名幼稚園の卒園ですよ。」と言ふことばと共にお話をよく聞きます。何ら劣らない人格者ばかりでありまして賞讃に値するものであり、この間の関係各位に厚く敬意を表するものであります。

現在、本市には十園の公立幼稚園がありますが、私ども生涯教育の観点をふまえ又基礎基本に立脚しつつ幼児期に最も重視されなければならない「丈夫な身体と心の教育」に努力を重ねておりますが、二十一世紀を展望した長期的視野に立って、今にも増して伝統に輝く山名幼稚園との連携協力の中で本市の幼児教育が進展し、実をあげる事を期待するものであります。

新装になった新園舎の中で輝いた眼で夢を語る教育が進められる事を期待して四十周年記念のお祝辞といたします。



袋井市 教育長

鈴木 勲 一



前 園 長  
諸 井 春 子

### 創立四十周年に思う

創立四十周年と新園舎落成おめでとうございます。

思い返せば、山名大教会四代会長様が戦後の混乱期、子ども達の姿を見てその将来を思う上から、天理教の教えに基づいて、心豊かで一手一つにたすけ合ってくださることのできる人間に育ってほしいと願われ、幼少期の育成に心をかけられまして教会内に子供会を発足せられたのが始まりでございます。

その後、青葉日曜学校が結成され、それが母体となって時代の流れとともに、保育園として幼稚園と移り変わり今日に至ったのでございます。

昭和三十八年四月より六十二年八月までの園長在職中は、神様に守られ又教会の方々のご理解とご父兄はじめ関係ある方々の温かいお力添えで、園の運営また子ども達の園生活の上にて恙くおつれ通り頂けましたことは何よりの喜びでございました。毎年三月、果立ちゆく子ども達一人一人に卒園証書を渡します時には、この子らが健やかな身体と温かい家庭に恵まれて育てられるうちにも、おやしきのお庭でたくさん遊んだ思い出や毎日口ずさんだお誓いのことばが心のどこかに生かされて、いつの日か立派に成人される姿を願ったものでした。

そんな中に、親子二代に亘ってこの園を果立って下さる方があり、時の過ぎゆく早さに驚いたものでした。

この度は、永らく親しんで頂いた木造の園舎とお別れして、新園舎での再出発となるわけですが、教会の幼稚園として、園長を志に一手一つに心を結び、尚一層、幼児教育の上に努力を重ね前進されますことを心から願ってやみません。

おもいで



# 山名保育園誕生

昭和二十一年八月、戦後の物心共に不足の時代の子供達の姿を見て、天理教山名大教会四代会長の諸井慶徳御夫妻の親心から、教会へ集めてお話、歌、ゲームなどをし、時には神様の御供物をおやつに頂いて楽しい子供会が開かれました。この年十月に青葉日曜学校と改称し、週一回定期的に開かれるようになり、翌年には山名青葉学園を結成、これを中核として以前の日曜学校や他の活動を各々組織化しました。この頃から日曜学校内で幼少年の指導にも力が注がれることとなったのです。

そして昭和二十四年、地域住民の方々の切なる要望から、保育所で収容しきれなかった子供を預ることとなり、正規ではないにしろ、保育施設の形態をとるようになりました。これが、今後の山名保育園、山名幼稚園の礎となっていくものです。その名を、

「山名青葉学園 山名保育園」と名付けられました。



▲青葉日曜学校の教案予定表

1946~  
1949  
昭和21年度~  
昭和24年度

- 二十四年度
- 八月 古橋、橋爪らロスマンゼルスで、一五〇〇、四〇〇mの自由形に世界新、フジヤマの飛び魚といわれる。
- 十一月 湯川秀樹博士、日本初のノーベル物理学賞を受賞。
- 一月 聖徳太子像の千円札が発行される。

# 山名保育園認可される

- 六月 朝鮮戦争勃発。
- 七月 警察予備隊発足（現自衛隊）。
- 十月 文部省、十一月三日の「文化の日」に「君が代」斉唱を通達。
- 三月 日本初のカラー映画「カルメン放郷に帰る」封切。



▲保育園の認可証

1950  
昭和25年度





# 昔懐かしい子供会の歌

1951  
昭和26年度

諸井春子 作詞・作曲

- 一、御教相様はやさしいお方  
み胸にいだかれ お手をつなご  
我等は道の子 山名子供会
  - 二、御教相様のおしえふんで  
さあさゆきましよ 元気な子供  
我等は道の子 山名子供会
- 青葉日曜学校時代に四代会長の陰の力となって下さった諸井春子先生が、子供達の為に作詞、作曲されたものです。会の初めに共に歌ったものです。

子供会へうた

諸井春子 作詞  
諸井春子 作曲

ごきょうそうさまーはやさしいおなかーな  
みむねにいたがけふてそつなこ  
みちろこ やまなこ 二どしがい



昭和二十七年十月、神殿の屋根のふきかえが終わりました。その時の足場の材料が、この園舎に姿をかえました。大教会婦人会の御力添えに感謝致します。又、吉田先生の御苦労が思い出されます。

- 四月 第五十五回ボストンマラソンに日本初参加 田中茂樹が優勝。
- 五月 日本のオリンピック参加復活決定。
- 九月 サンフランシスコ平和条約締結。日米安全保障条約締結。



▲授業風景

- 七月 東京国際空港スタート。
- 七月 第十五回オリンピック・ヘルシンキ大会に初参加。レスリングの石井庄八優勝。
- 十一月 ラジオ、静岡放送開局。



▲当時建てた園舎



▲新園舎で初めてのおひな様発表会

# 新園舎落成される

1952  
昭和27年度



# 給食おいしーよ

新園舎で二年目をむかえた子ども  
の日。

特別のメニューで給食です。子ども  
も達は大喜び。

秋には、青組を先頭に整列。はり  
切って運動会の始まりです。

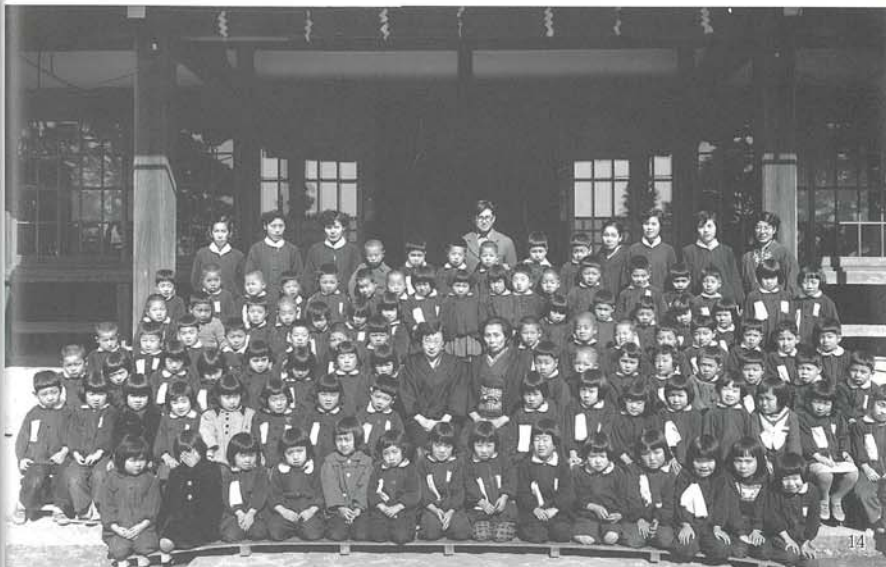
十二月 NHKの紅白歌合戦を日劇  
から初の公開放送。大晦日の  
人気番組となる。  
二月 マリン・モンローが野球の  
ジョー・ディマジオと来日。



▲みんな食べられたかな？

早くほくの番がないかなあ▶

1953  
昭和28年度



# 「母の会」便り発行

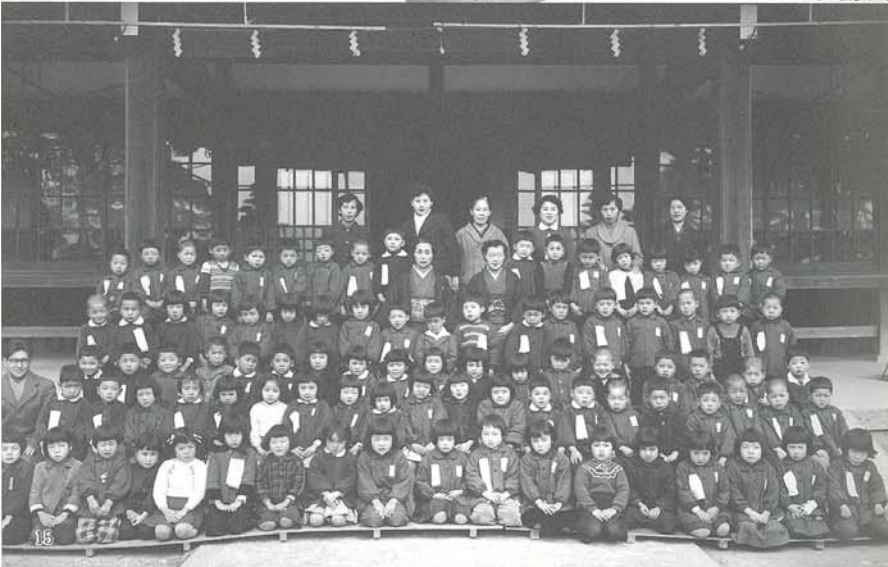
「かあちゃん、いってまいります」  
「あ、行ってらっしゃい気を付けてね」  
「言っても終らぬに子供はかけ出して  
行く、門まで出て見た時はもう辻の  
橋の上立ってこちらを向いて笑っ  
ている。もう一度、  
「気をつけてね」  
と言えば、口は両手でメガホンと  
作り、  
「かあちゃん、今日お家にいてね。ね。」  
と云っている。  
「はいはいいてあげるよ、気を付け  
てね、いってらっしゃい。」  
の聲に、ニッコリ笑ってさっと片  
手を上げてかけ出して行ってしまっ  
た。まあ元気なこと、私は思わずホ  
ットした。月日のたつのは早いもの  
黄色さんから上がってもう二年、毎  
日の朝の出がけをあまり困らせない。  
ほんとに有難い、うれしい。  
卒園の日も間近かに、桃のお節句  
のお遊戯や、歌など、夢の花園のよ  
うな楽しい嬉しい、明るい保育園、  
さ、すみちゃん 「母の会」より

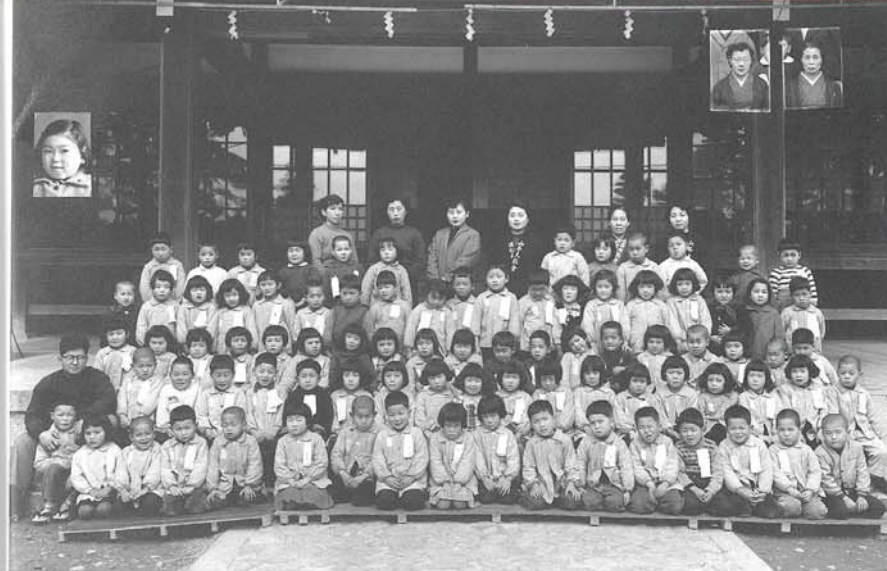


▲「母の会」便り

九月 松竹映画「二十四の瞳」封切  
される。

1954  
昭和29年度





1956  
昭和31年度

保育園とよなり

十月 佐久間ダム完成。  
十一月 第一次南極観測調査船「宗谷」出発。  
十一月 第十六回オリンピック・メルボルン  
大会開幕。体操小野喬優勝。



わがさしんのお歌

少人数だった当園も、施設、内容  
共に充実し定員以上の園児数で将来  
を期待された。初めからお世話下さ  
った吉田先生御夫妻が熊本に行かれ、  
更に大教会長様のおことばと地域の  
要望により幼稚園に変更が決まった。  
さぞ御父兄の方々もとまどった事と  
思います。卒園児も四五六名と遠く  
横須賀、長溝、今井、法多と広範囲  
から通園、御父兄の方々も非常に  
熱心に御協力、御援助を頂きました。  
改めて深く感謝の意を表します。

◀ ぼくお祭り大好き



1955  
昭和30年度

みんなと踊って  
拍手いっばい!



◀ 親子踊り、先生お母さんと  
一緒に踊りました



▲ お遊戯上手にできました

六月 初のアルミ貨一円區  
生。  
八月 第一回原爆禁止世界  
大会、広島で開催。  
十月 日本原子力研究所発  
足。  
三月 国産の本格的電子計  
算機完成。





1958  
昭和33年度



◀ お遊戯

三十三年には七十八名と園児が減少しました。でも先生方は内容の充実を図り、太鼓橋は遊戯室に、畳の部屋はままごとの部屋とし、園舎を十分活用、冬にはヤグラゴツツで子供を送ってきたお母さん共々暖をとりながらお話し合いました。  
又、欲しい欲しいと思っていてピアノも購入することができ、これも園長先生はじめ御父兄方のお力の賜と感謝し大事に使用させて頂きました。

十一月 袋井市誕生、市制施行初代市長戸倉完爾氏、議長平野太治馬氏、人口三万一千二百二十七人、五千六百六十九世帯。  
十一月 卓球の吉田たみ子さん全国優勝。  
十二月 東京タワー完成、高さ三三三米。

新しくピアノ購入される

1957  
昭和32年度



◀ ▲ 1 番最初のおひな様発表会



▲ 認可証

幼稚園の最初の年です。職員も保母から教諭に変更し、東大出の立派な園長を上司に新卒のかわいい豊嶋先生を新潟から迎え、近藤、掛井、事務に鈴木穰氏と若手の先生で、園児は、年長五十六名、年中二十二名、年少八名、合計八十六名の少人数で初年度が始まりました。

保育料 五百円

1. 山名幼稚園・前身は児童福祉法による保育所でしたが、当袋井町高尾地区には保育所が三か所あり幼稚園は一所もなく、そのため保育所本来の目的・保育に欠ける幼児を保育する、ためにために前々より地域の要望として幼稚園設置の声がしきりでした。又同地域は措置見込に該当する幼児が他地域よりも少なく、学令前の幼児教育を受け非常にお父兄の間で強くなってきました。その要望に答えるために保育所を廃止し新たに幼稚園を設置する事になりました。  
2. 当園としましては幼児教育を致し幼児の健全なる育成に務めたい。  
3. 町当局としても、同一地区に三か所の保育所は多いとの見地より幼稚園に変更する事に賛意を表し共に幼児の幸福をはかるべく話し合い賛同を得ました。

山名幼稚園認可される



1960  
昭和35年度



▲おひな様発表会



▲運動会 だるまころがし

- 五月 自治会長会発足。
- 六月 工場誘致条例制定。
- 八月 第十七回オリンピック・ローマ大会開催。上山製の安間之重さん走幅跳び出場。
- 九月 袋井病院竣工。
- 十月 第二代市長に曾我正雄氏当選。



なつかしい  
市村先生と一緒  
狐ヶ崎公園へ電車で行ったっけね。

すべり台でハイ、ポーズ

1959  
昭和34年度

泉水プール完成!



新しいプールだ!!

- 八月 豪雨、袋井市に災害救助法適用される。
- 九月初の市議会議員選挙二十四名決まる。投票率九五%。
- 十月 国鉄袋井駅落成。
- 十一月 袋井市歌制定(市制施行一周年)：昭和五十二年八月レコード化。

深さ 80cm  
広さ 17mと19m  
のだ円形

神殿からまっすぐ南へ見える位置に泉水プールが出来上がった。  
注水式に園長先生が紅白のリボンをつけたハンドルを廻すと蛇口から、そして中心から、いきおいよく水が出た。拍手。  
岡野、永井等の羽織袴の役員先生方の姿が眼に浮かびます。その後園児たちのタンプリンに合わせた歌声が続いた。曲は何だか思い出せない。当時はプールの  
あるところが少な  
かったので、この  
プールで水遊びが  
出来るのだと思う  
と感激も一層でし  
た。



◀緑陰紙芝居



1962  
昭和37年度

ありがとうが大きく見えたよ



▼豊田裕子ちゃんの絵



- 四月 第一保育所完成、西小併設に別れをつける。
- 六月 国鉄新幹線 袋井工区着工。
- 九月 静鉄秋葉線電車廃止。
- 一月 山梨町合併、人口七千二百世帯となる。



◀さあ、お母さんと踊りましょ

岡崎の城山大教会にて  
おもい掘り▶



▼みんな集合！



秋、城山大教会の畑へも掘り遠足。軟らかな土でつるが切ってあったので、子供達は大喜び。昼食にはカキ卵のお汁と、ふかいもをいただく。向かいの山に登ると、太平洋がみえた。ヤッホー、たのしい一日でした。

又各自お弁当もちでミルクを園でという事で、当時脱脂粉乳のミルクをどうしたらおいしく出来るのか、穰先生が懸命に取り組んだことが思い出されます。

- 五月 周南中学校鉄筋校舎完成。
- 六月 袋井市の紋章制定。
- 七月 この夏猛暑が続き、不快指数という言葉が流行。
- 十月 袋井中学校鉄筋校舎完成。

1961  
昭和36年度

秋だ！おもい掘り遠足だ



# 1963 昭和38年度

## 園児数増加し178名になる



▲みんな上手に出来ました

- 四月 袋井市消防署開設。
- 六月 市議会議員定数二十四人を二十一人に増員。
- 十一月 ケネディ大統領暗殺される。
- 十一月 袋井商業高校移転落成。
- 十二月 袋井市建設計画決まる（昭和三十八年〜四十五年）



▲船頭さん

園児数が急に増加し一七八名となり、教室をどのように使用したら良いか随分苦労した。  
古い門屋の横にとび離れた教室を設け、年長組二人の先生の担当で保育に当りましたが、かなり不便なこともありました。  
お遊戯会には、ハーモニカの発表をしました。

◀みちのこの歌を教館で歌いました



園児数はとうとう二百名をこえた。年長二組、年中三組、年少一組で園舎はギユウギユウ。  
四月二十二日天理市で、道の子のつどいがあり、希望をつのり参加した。二十一日出発、二十三日帰園（マイクロボス）  
親が同伴しないので随分、気を遣いましたが大成功でした。  
夜が心配で家からの電話がひっきりなし。子供達も夕方はちよっぴり家が恋しそうでしたが、帰りは元気で大にここに。



▶お庭で遊んだよ

- 十月 第三代市長大場和三次氏当選。
- 十月 第十八回オリンピック、東京大会国内聖火リレー参加。
- 一月 袋井衛生センター小野田に完成。

# 1964 昭和39年度

## みちのこのびじうへ参加





# 東園舎増築される

私がお長を勤めさせていただいた昭和四十二年度の特筆すべきこととしては、園舎の増築が挙げられると思います。その二、三年前から、その日の為に積立を始めておりましたが、思いがけず予定より早く、新年早々に（だったと思いましたが）、境内外の三教室棟が出来上がりお祝いの式がありました。その時の自分のお粗末な挨拶に、穴があったら入りたような気持を経験したことを強烈に覚えています。それ以来、長と名の付く役は引き受けまいと思いつつ、性こりもなく、その後も何度かやっておりますが、相変わらず、話が下手で、いつも顔が赤くなります。

その他、劇団たんぼの演劇観賞に、子ども達がとても喜んだこと、天理市のおおちばに、鼓笛の演奏旅行に行ったことなど思い出します。

あれから丁度二十年、長男の娘の写真を前に、半年振りに訪れた次男の部屋で書き綴っておりますと、先生方の若かりし頃の笑顔や、息子達、そして、そのお友達の間々の可愛いかった表情が、眼に浮かんで来ます。

寺田 広子



▲東園舎全景

- 七月 日本人口一億をこす。
- 七月 国重要文化財油山寺三重塔複元工事。
- 八月 静岡鉄道駿遠線廃止。
- 十一月 堀越に経済連家畜市場完成。  
(東洋一)

# フェスティバルに向けて

## 猛練習

今一番思い出に残っている事と申しますと、鼓笛隊の事でしょう。九十余名の園児が、次々と隊形を変えながら「巨人の星」のテーマ曲を合奏する姿を見て、よくぞここまで御指導下さったと感謝したものでした。浜松体育館で行われた「鼓笛フェスティバル」にも参加し、又卒園時にはおちば帰りで見事に演奏した光景が今だに目に浮かびます。この鼓笛隊は当時より二、三年前に編成された様ですが、二十年余り経った今日でも、山名幼稚園の伝統として受け継がれている事をとても嬉しく思います。又母の会の行事として、当時静岡新聞社の記者をして活躍しておられた村田静枝先生に「平安時代の女性」について講演をお願いして好評を博し、安堵した事を記憶しています。この度は、四十年の歴史を持った旧園舎とお別れする事になり、様淋しさを感じますが、新園舎も建設され、学校法人となつた新しい園として益々の御発展をお祈り申し上げます。

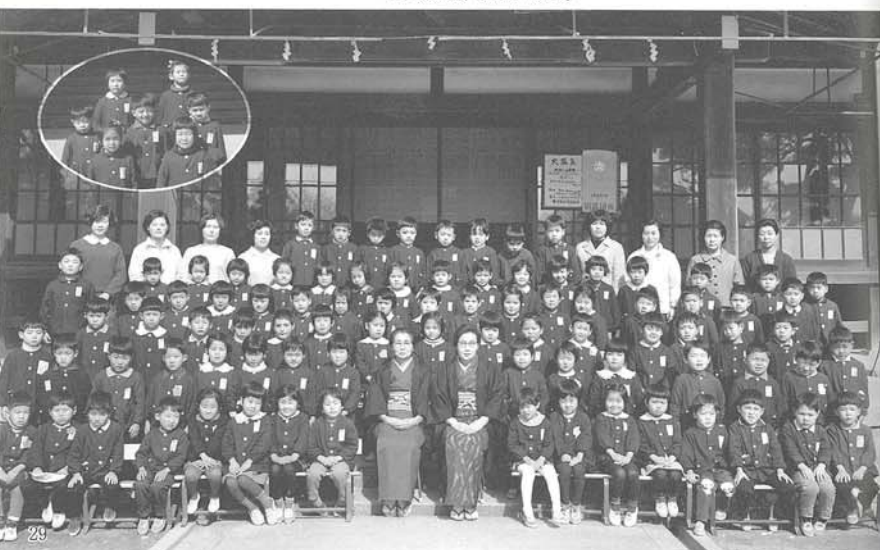
伊藤 恰子



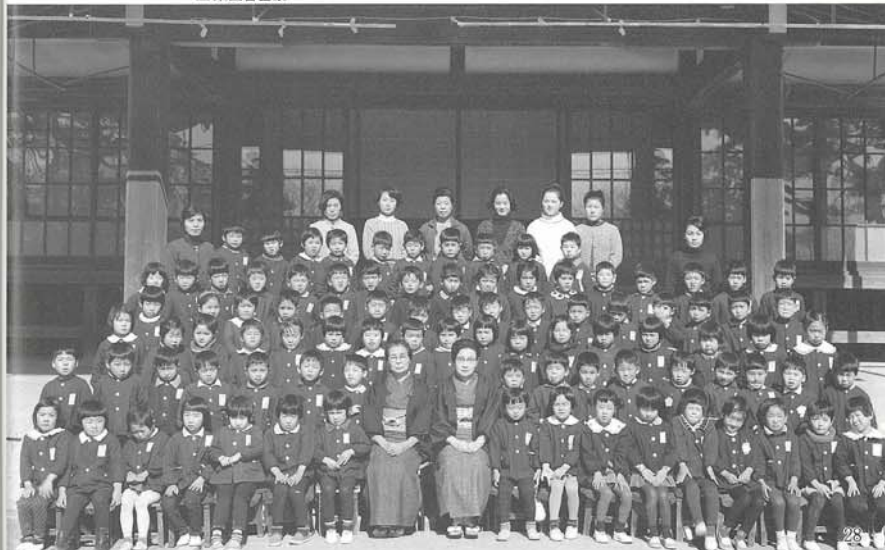
▲巨人の星、がんばったネ!

- 七月 郵便番号制度実施。
- 八月 県章、県旗の図案決まる。
- 九月 袋井の愛の献血、厚生大臣より感謝状を受ける。
- 十月 川端康成氏、ノーベル文学賞受賞。

1968  
昭和43年度



1967  
昭和42年度



# 園舎改造される

当時は「母の会」と申しますようにその活動は百パーセントお母さん達の力によるものでした。園のさまざま行事。一泊保育、運動会、おゆうぎ会等々、その準備など大変な時は、大教会の青年さん達のご奉仕を仰ぎ、大変感謝致したものでした。運動会などにお顔をみせて下さるお父さんいらっしゃいました。参加して下さい下さる方は皆無かったです。幼稚園も是非お父さん達に参加していただきたい、という主旨で「母の会」の名称がふさわしくない。「父母の会」ということで役員のみなさまの御賛同をいただき、四十五年三月の「母の会総会」の一議題にかけ会員の皆様の方雷の拍手にて「父母の会」が誕生した思い出がよみがえって参ります。

今春園は学校法人へと飛躍をなされ嬉しい限りでございます。一層の御発展を心よりお祈り申し上げます。

豊田 令子

- 四月 東名開通、袋井インターチェンジ開設。
- 四月 山名小学校開校。
- 四月 袋井青年会議所発足。
- 五月 緑橋開通。
- 十月 遠州三山ハイキングコース開き。



▲すこい怪獣ね!



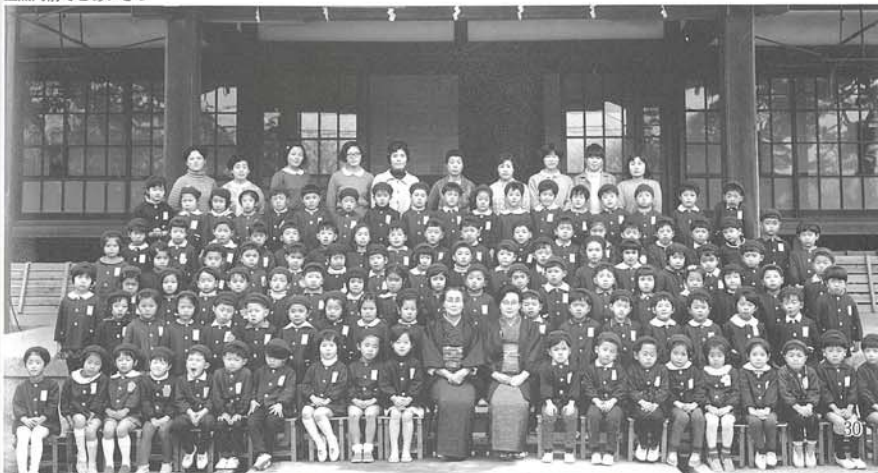
▲さあ鼓笛隊の練習が始まるよ



▲黒門前でごあいさつ

# 1969

昭和44年度



# 「父母の会」誕生

四十五年度は画期的な出来事が二つありました。一つは父母の会の働きかけで横断歩道がついた事です。これは袋井市で初めてだったと思います。園と別館を行き交う園児の安全を願ひ、六月から車と道の現状調べ、写真、陳情書作成と私共にとって初めての事ばかりでしたが委員の皆様が一致協力して根気強く実行して下さいました。当時県警では、車の進行を防げる横断歩道は増設しない方針とお話してしまから陳情書各方面に亘りました。関係各所でご理解は示して下さいましたがむずかしい状況でした。ところが急転直下、七月末に早川写真館横の二か所でした。ベンキが陽に映えて感無量でございました。次はお母様方の熱心なご協力で盛大になつたお遊戯会を少し縮小しようとする事でした。趣旨として保育の成果発表の会との認識を会員の皆様にお持ち頂く様にお願ひ申し上げます。

私の力不足で多少の紆余曲折はありましたが、ご理解頂けてありがた事です。ありがとうございました。

前本美代子

- 四月 市立図書館掛之上に開設。
- 四月 都市計画用途地域指定。
- 八月 山名小学校、新築落成。
- 十月 深見六才橋完成。
- 三月 延久橋完成。



▲お母さんの仮装行列楽しかった



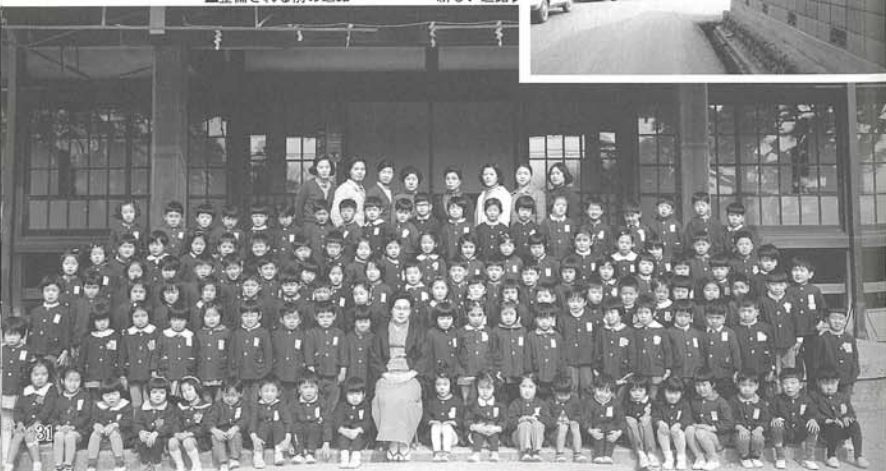
▲新しい道路



▲整備される前の道路

# 1970

昭和45年度



# 園児数300名こえる

1972  
昭和47年度



▲がんばれ、がんばれ!



▲ざるをかぶって一目散!



▲みんな真剣!

ベビーブームの時代で園児も昨年度から三百名をこえ、年長、年中は三組、年少は二組でした。年少は三十九名のクラスでした。  
運動会も盛大に行われ、花火大会、交通安全パレードと鼓笛隊も大忙しの年でした。

十月 市長に大場和三次氏無競争三選。  
十二月 袋井消防署庁舎川井に新築落成。  
一月 袋井中学校校舎落成。  
二月 駅前都市改造事業に着手。

# 日本ロシユ修祓式に 鼓笛隊が参加

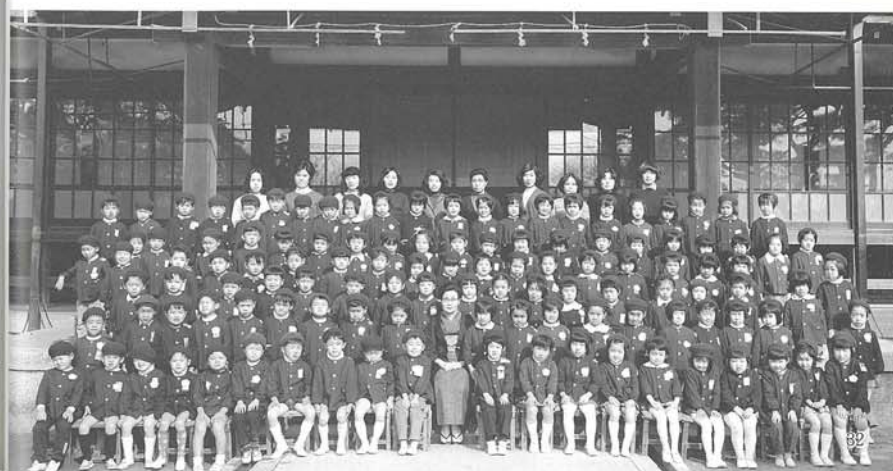
1974  
昭和46年度

十一月にロシユKKの修祓式に招待され、かわいいハッピー姿の園児の演奏に、外人達が大喜び。  
又、秋の稲刈りを見学し、お百姓さんにお話を聞かせてもらいました。

四月 東名と山梨を結ぶ北部農免道路できる。  
六月 共立袋井市民病院が、袋井市民病院に独立。  
七月 可睡の中山俊次郎さん、チェコの国際高齢者マラソン第五位。



▲稲刈りを見る園児



# 日本平に遠足

春には、日本平動物園へ遠足。  
入口で記念撮影。

秋には、東京からコーヒーの好きな野々垣先生をお招きして、体育の公開保育をし、子供達は大喜び。この年フェスティバルは、磐田市体育館で行われました。



▲おすまし顔でハイ、パチリ  
◀神殿前でお供え演奏



▲運動会で鼓笛の演奏

四月 西幼稚園開設。  
五月 第一回みどり太陽と親子のついで開催。  
五月 市民体育館完成。  
十一月 市の木「マキ」、市の花「ボタン」を定める。(市制十五周年記念)

野々垣先生をお招きし「子供達の育て方」について御講演があり、「塩」といえば塩、醤油といえば醤油をかけてくれる親「これでいいのだらうか……親の姿のどうあるべきかを反省させられる印象深いお話でした。又、この年は今までになく大雪で、雪かきや雪合戦で子供達も大はしゃぎでした。



七月 七夕集中豪雨災害。  
九月 鉄閣橋開通。  
十月 小笠山青少年活動センター落成。  
十二月 昭和六十年を目標に「調和のとれた豊かな近代都市」の基本構想決まる。



▲みんなそろってお遊戯始め!



# ワイイ、雪だ！雪合戦だ

## 1974

昭和49年度



## 1973

昭和48年度



▼ホールを持ってお遊戯



- 四月 菱井高校開校。
- 六月 市制モニター制度発足。
- 七月 菱井高校新校舎完成。
- 十月 第四代市長に湖東二郎氏。



◀私にぴったり合うかしら

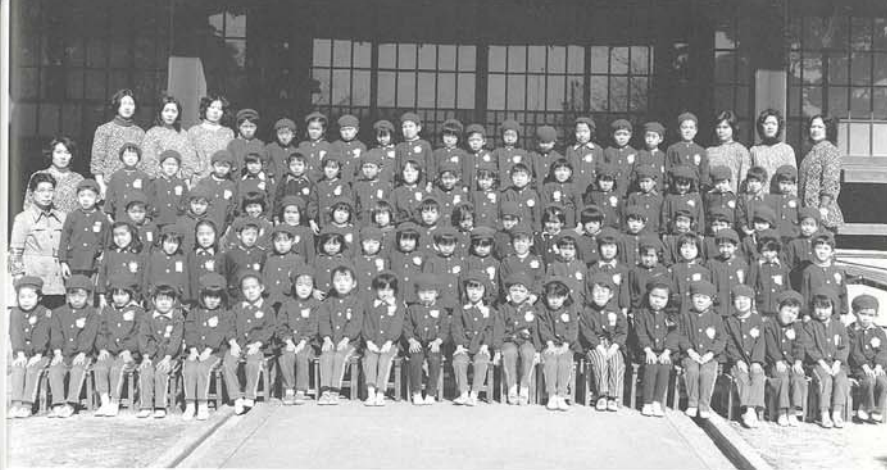
昭和五十年、前園長の講井先生や教会役員皆様による園の法人化、園舎建設を御相談して以来ようやく実現することができました。この十二年間、その灯を絶やすことなく、今日を迎えることができました。これは園関係者の幼児教育への情熱に他なりません。振り返ってみればこの十数年、県や市への繰り返しの訪問は良き思い出となっております。

「いも掘り遠足」も高度成長の殺伐とした社会環境の中で「幼児に土の感触を」「自然の大切さ」と最初の手掛けさせていただき、現在でも続けられており、収穫時の子供達の笑みはいつの時代でも変わらないものでしょう。

運動会の仮装行列で、一体に扮し多くの拍手をいただいたり、天理へのおちば帰りのあの風吹きささぶ中での子供達の鼓笛演奏に目頭をあつくしたのも得がたい思い出です。

青葉保育園発足と同時に入園し、第二回の卒園児として育った山名の園が、私の人生に大きな影響を与えております。どんな時でも教師、父母、園児が一体となつて真剣に取り組む姿こそ山名の誇りであり、益々愛情に満ちた幼児教育が展開されることを心よりお祈り致します。

高橋 桂一



▲手もしっかり出来ました



- 五月 エリザベス英女王夫妻来日。
- 七月 米ノの出会い、アポロとソユーズがドッキング。
- 八月 市立南中学校舎落成。
- 一月 在宅重症心身障害児通園センター「おゆみの家」完成。

末娘が年長の年、「山名幼稚園母の会」の改革を目指して、昭和四十五年度「父母の会」と改名、図らずも初代会長と云う大役を務めさせていただきました。長男・長女の教育は母親任せで、幼稚園教育には何の試みもなかった小生にとっては、総てが初めで、若林先生の力強い教育熱と、当時の役員の皆様方の温かいご協力を賜わりながら唯々夢中で一年間、その任を果たし、無事終了させていただきました。四季それぞれに行事があり、楽しく参加させていただきました。中でも、児童の私学助成金問題を行政に陳情し、僅かながらも認可された時のうれしかったことや、ひな祭りの舞台の幕を役員の人達が一致協力、夜遅く迄苦労して作ったこと等も今はよき思い出として心に残っています。

塩谷 一徳



▲お祭りの日に鼓笛演奏

# 1975

昭和50年度

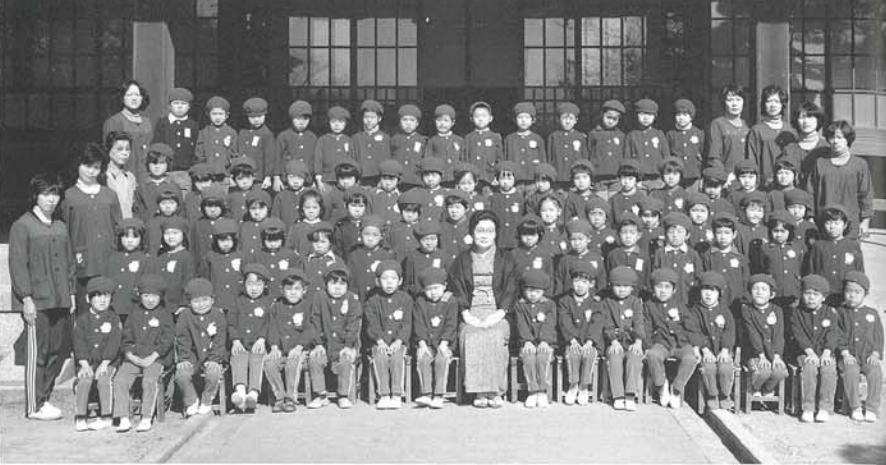
## 運動会に初めての組体操

# 1976

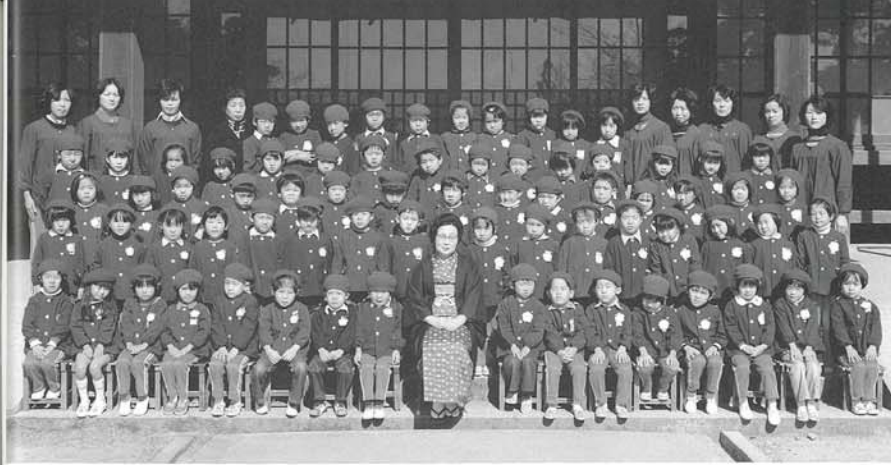
昭和51年度

## お父さん、お母さんも

## 運動会で一役



▼みんなの前でときどき



▼お母さん、カッコいいね！

1978  
昭和53年度



▼てんとう虫の洋服屋さん



▼リボンを手にしてクラスのお遊戯会



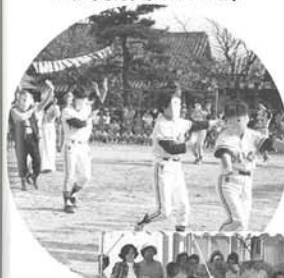
衣装がすてきね、お遊戯会

四月 老人福祉センター「白雲荘」完成。  
十一月「まちを美しくする都市宣言」市制二十周年。

私が父母の会々々を務めさせて頂いた年は、イラン革命が勃発し日本では大平内閣が誕生した年でありました。  
△四月 入園式▽桜の花咲く教会園舎での入園式、大声で泣き親元を離れず困らせた我子に親の自信と期待を見事に打ち破られた二年前を思い出される出発でした。  
△十月 運動会▽一か月前から練習したお遊戯や競争、雨を心配しながら一日楽しく親子で過ごした日、子供の笑顔が……又一生懸命な姿……一生忘れないう思い出の日。  
△三月 お遊戯会▽山名教会の大広間が超満員、かわいなおどりや歌にビデオや写真のフラッシュで子供達は全員、スターやヒロイン。舞台の袖で心配そうに子供達といっしょになって手まねで踊っている先生の姿が今も頭に浮かんでくる。感謝の気持で一杯でした。  
△三月 卒園式▽子供達より母親の悲しい姿が印象的、先生方の涙が子供達への愛の深さを物語っていると感激いたしました。 杉井 征夫

1977  
昭和52年度

あいま田いっく



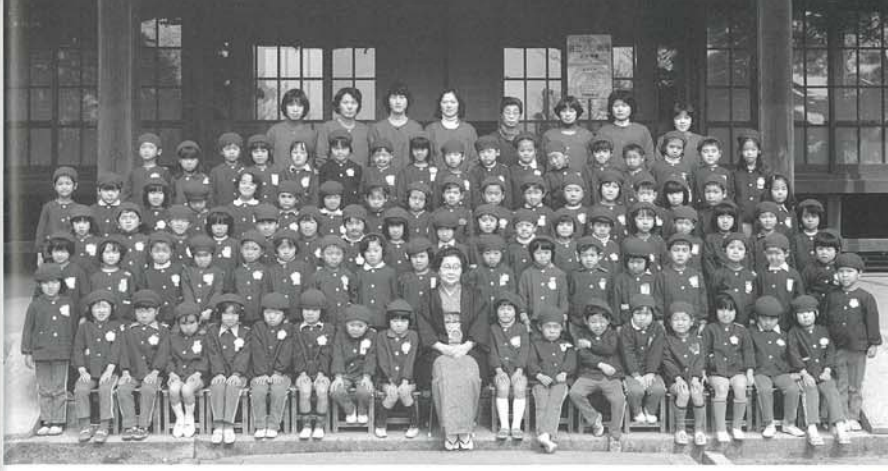
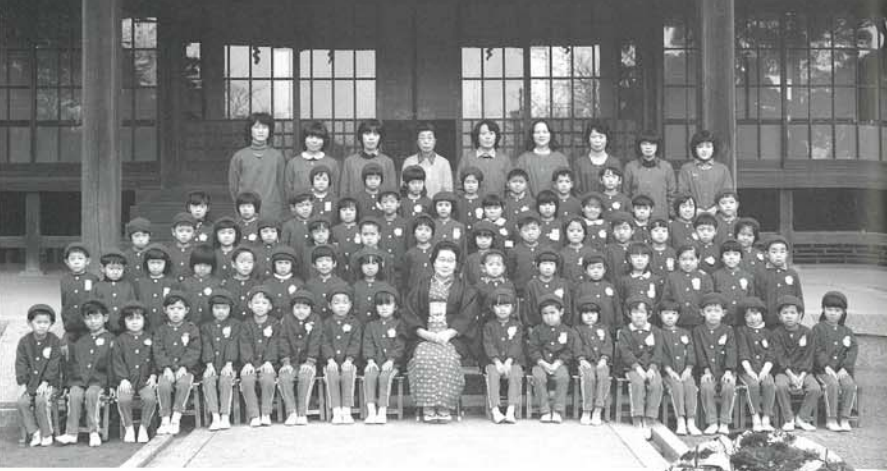
▲おいもあるかな



◀ 鼓笛演奏

四月 高南幼稚園開園。  
八月 市歌レコード製作発表。  
十二月 工業製造品出荷額一千万円突破。

長男は今年高校生だ。山名幼稚園を卒業したのは丁度十年前前だ。俺の顔の面積も随分広くなった訳だ。頭皮が見えないだけでもまだ良かった。髪は長い友達と言っからな。息子が年長青組の時會長という長のつくものをやった。以後、小学校、高校とPTAという海で泳ぎっぱなし。水着も少々くたびれてきた。今度は超ハイレックの物を着てみよう。そんな訳で昭和五十二年が俺の将来を左右したよ。思い出が。色々な事があったよ。辞書を引くに出めがねを使う様で、もうろくした頭の中から思い出を引っ張り出すのも容易ではない。ドカベンやサンタに扮したり、美女に取り囲まれて鼻の下を長くしたり、総会でガラでもなく挨拶する時、若き美女軍団のコスチュームと黒い瞳を見た瞬間、俺のからだ中の血液という血液があっという間に逆流してしまった。あとは金魚の様にバクバク口を動かすのみ。以来俺は親父も海で泳げと言っている。 鈴木 隆一



1980  
昭和55年度

1979  
昭和54年度



ビッピテントンピーヒャララ▶



▲先生もいっしょに泣くなしゃもじくん



▲年長さんかっこいい!



▲みんなでお祭りに参加



▲新しいお便所



◀仲良し広場の速足

みんなでのぼったよ、  
ジャングルジム

十一月 第一回 遠州三山歩け走るうサイク

リング大会始まる。

鈴木 敏行

教育の原点は、あくまでも家庭だと確信しています。二十一世紀の幕あけも間近です。人間の基礎作り、土台作りに向けて頑張り、次代を担う幼児をより多く育てていきたいと思えます。

幸いにも、山名幼稚園と云う良い環境のもとで、若さと情熱あふれる先生方に出逢い、大きな目標に向けて頑張っている姿を見て非常に感激をし、又安心をしています。

色々の行事の中で一番印象深く残っているものに子供のしつけについての教育講演があります。母親の胎内にいる時から、すでにしつけは始まっていると聞かされ驚きました。一つの命が宿される時の両親の心遣いや生活環境がその子供が生まれて育って行く中で、如実に現れると云う幾多の例を聞いた時、現実自分達の子供にもその現象はすばり的中であり、三人三様の性格を持ち、ある人は怒りっぽく、ある人は陽気であり、又ある人はもの静かであり、その時の両親の心遣いが映し出されていて、反省させられる事ばかりですが時すでに遅し。

十月 袋井の歌(袋井小唄・袋井慕情(きょう))  
十一月十七日発表会。  
十一月 庁舎建設地を国本に決定。  
三月 緑のマスタープラン策定。

山名幼稚園父母の会の役員をやらせて頂き、早いもので八年が過ぎ、子供達も今や中三、中二、高校進学のことか家庭の話題になるまでに成長しました。ところで最近、子供達をみていて感じる事があります。それは食べものの好き嫌い交友関係に、つながりがあるのではないかと云うことです。長男は、さほど好きいな物もなく、なんでも食べます。友達とも幅広く多くの人と接触している様です。次男は好きな物が多く、友達とはごく気の合った少数に限られているようです。食事の時「これ食べたら」と声を掛けると、長男は箸をつけてみまうが、次男はみむきもしません。同じように育てたはずが性格はかなり違い、次男の方が自己中心で頑固でありますので交友関係も限られてしまうようです。

食が人間の性格形成に大きな影響を与えるとしたら、未来を背負う子供達を持つ母親の最たる役割は何でも食べられる子供達に育てることではないかと思うのです。 佐野 浩司

お便所きれいになったね



1982  
昭和57年度



▲チャリティーフェスティバル開会式



▲一泊保育 朝のお散歩



▶防火パレード参加

七月 美しくうるおいのある都市づくりをめ  
 ざして「環境デザイン委員会」発足。  
 十月 広愛大橋着工。  
 十二月「和橋」着工。

思い出せは皆楽しい事ばかりです。幼稚園の仲間入りをしたみたいで園に行くのが楽しみでした。すてきな先生方とかわい子供達に開まれて行った行事はどれも忘れる事はありませんが、中でも仮装で忍者ハットリ君をやった時に、顔を塗りたくって手裏剣を投げながら柵の上に飛びのり足がもつれて後で冷や汗をかいた事や、運動会に雨が降りテントを張りながらやったので海野先生に雨男と呼ばれた事を思い出します。遠足、おひも堀り、一泊保育、プール掃除、おちば帰り、クリスマス会、お遊戯会等、役員をやらせていただいたおかげで色々な事を教えられました。先生方の子供達に真剣に接する姿を拝見する度に子供を山名に入れていただけて良かったなと思えました。そして、一緒に役員をやっていた皆さんの温かい友情とご支援に感謝せずにはられません。今後の山名幼稚園の御発展を心よりお祈り申し上げます。

竹原 義雄

# うれっこ鼓笛隊大活躍

1981  
昭和56年度



▲すいか割り



▲一泊保育でカレー作り



◀みんなぐっすり

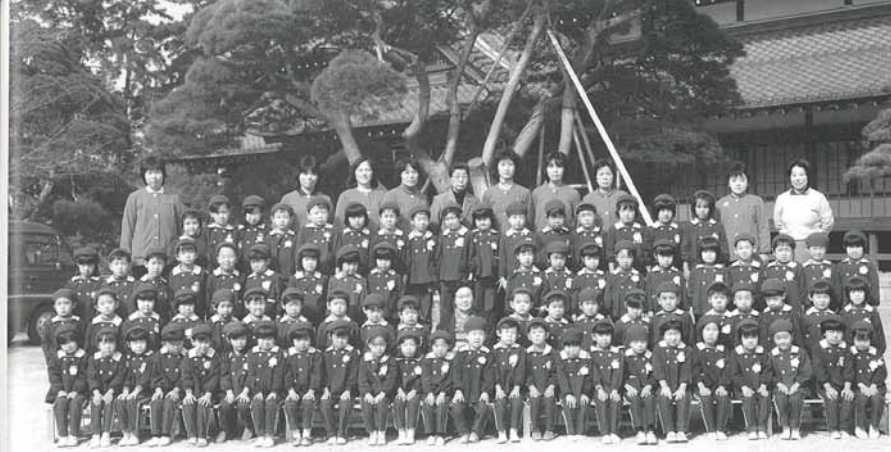
四月 勤労者体育センターオープン。  
 四月 夢のかけ橋(広愛橋)の測量始まる。

私が父母の会長をさせていただいた昭和五十六年度事業計画は、毎年ってきた各事業にメリハリをつける事と新たな行事を行う事に目標をおき進める事にいたしました。たとえば、一泊保育では夜の行事に花火と祭りはしを組み合わせた、さつまいもについては苗植からも掘り迄愛情かけて失敗せぬよう心掛けたり、いろいろと思ひ出されます。新しい行事は山名幼稚園の子に雪のプレゼントをと云う事で、初めは富士山の五合目迄行って雪を取ってこようかと考えましたが、たまたま掛川でJ.Cが雪祭りを行うと聞き知人にお願ひし、山名幼稚園の分として十トン車に二台半分いただく事ができました。雪がとけない様にと前日からシートでおおったりで気が足ではありませんでしたが、山名の庭に特設雪山が誕生いたしました。当日はそりですべったり雪ダルマを作ったり、雪合戦をしたりで大変喜んでいただけたと自負しております。いろいろな行事を通して、子供だけでなく私達も充分楽しませていただき良き思い出になっております。

渡辺 政直

# 楽しかった一泊保育





1984  
昭和59年度



八月 全自主防災組織に可  
搬米ノの配備完了。  
十月 安井市長選挙、湖東  
二 郎氏が無投票当選。  
三月 和橋が開通し、新し  
い歩道橋の建設が始  
まる。



▲寒いけどがんばったわ

みんなでいったね、

おちば帰り

神殿前で：「みんなの音がひとつ  
になってすばらしい演奏ができたん  
だよ。」と自信に満ちたこともたちの  
顔！  
「かわいいねえ。」「じょうずだね。」  
とハッピー姿の天理の人達から拍手い  
っぱいだったお供演奏。：。詰所の人  
にも聞いてもらいましたね。  
次の日は大仏様を見たり、柱ぐぐ  
りをしたり、鹿とあそんだり。  
とっても楽しい二日間の旅でした。

1983  
昭和58年度



▲ふれあい広場で



四月 不燃物分別収集市全体でスタート。  
四月 保健センター開設。

お父さんと遊ぶう  
11月13日、お父さんと運動会。強  
風に見舞われ、土煙でいっぱい。

お父さんと運動会



# スノーボードで大はしゃぎ

1985  
昭和60年度



スノーボードで大はしゃぎ

山名幼稚園に富士山の雪

雪が降り、山名幼稚園に富士山の雪が降った。幼稚園に降った雪は、子どもたちが大喜びで踏んで楽しんでいる。幼稚園の先生も、子どもたちと一緒に雪遊びを楽しんでいる。幼稚園の庭には、雪が積もっており、子どもたちが雪遊びを楽しんでいる。幼稚園の先生も、子どもたちと一緒に雪遊びを楽しんでいる。



雪山スノーボードを貸出し大はしゃぎの園児たち。背景は山名幼稚園の山名幼稚園で。

鼓笛用ハッピとズボンの更新。青と赤のコントラストがちょっと、強すぎたかな。でもとてもよく似合っていたよ。

- 五月 袋井高校、春季東海地区高校野球大会で、「初出場、初優勝」を飾る。
- 八月 日航ジャンボ機墜落。
- 十月 二十一世紀への指針「袋井市基本構想」まとまる。
- 三月 袋井市の人口五万人達成。



▲きれいできました

長い間使用したプールが一週間であまり壊された。ブルドガーの大きな音が響く。突然、数人の子供が、「アッ、プールがこわされる」と道路を走って渡った。一瞬、ハッと。子供達も口では言えない感慨深いものがあったと思う。たった一本残った桶だけが永い歴史を知っている。これからは子供達と共に大きく育つことを願う。

プールよ、ありがとう。

- 七月 斉藤滋与史新知事誕生。
- 十一月 袋井市の名誉市民の称号足立篤郎氏に贈呈。
- 十二月 第五回浜松中日カレー大会の男子四〇〇mリレーで南中チームが中学日本新記録を達成。
- 三月 天竜浜名湖鉄道が開業。



▲プールで遊ぶ子どもたち



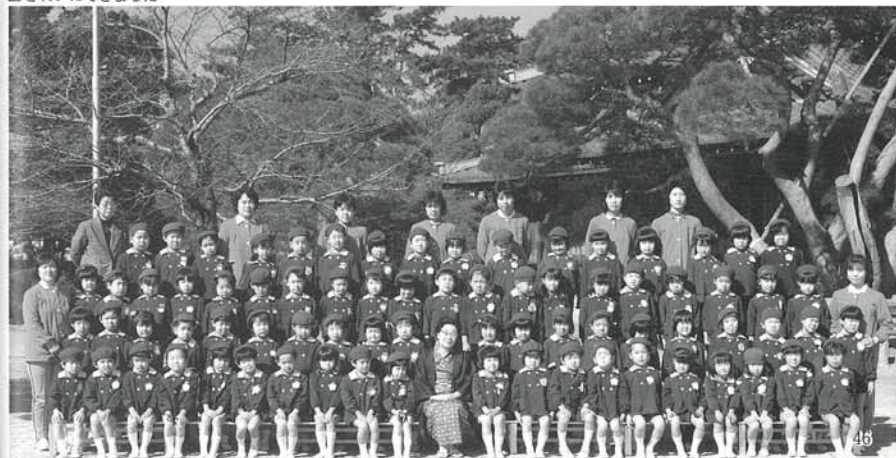
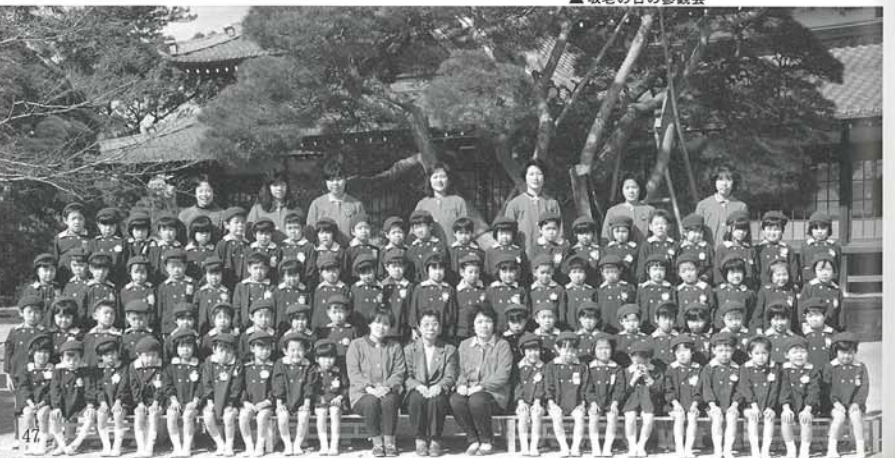
▲桜の木の下で



▲敬老の日の参観会

# プールよ、ありがとう

1986  
昭和61年度



# 新たなる山名幼稚園の出発

## 1987 昭和62年度

お庭には入園式を祝うように満開の桜、学法化して初めての年、理事長始め理事、父母の会々長、来賓の方々の御列席、男性が多く新入園児も緊張気味、とても立派な入園式でした。起工式には年長組だけが列席玉串を奉献しました。プールは今年断念し、磐田カルチャーセンターへマイクロバスで送迎し、日焼けもなくプール掃除もない夏でした。

父母の会の要職を軽い気持ちで引き受けた後、今年は、園舎の移転新築、創設四十年、そして幼稚園として三十年目、宗教学法人より学校法人と全てに重なった年だけに、光栄であると同時に責任の重大さを感じている日々です。

昨年、今年と役をやらせていただき、沢山のお父さん、お母さん、そして園長先生始め教育熱心な先生方と巡り会えたり、今年三月で退職された清水先生、堀内先生、一年二か月の間に色々な思い出が出来た事、それにもまして、豊かな自然の中で園児達が思いきり体を動かす自然の中でふれあいの中で、虫と、遊足、

これも掘りの時は、我を忘れて、感動したり、覚えたりする子供達、日に日に逞ましくなる姿が、親自身欣欣と感じられます。二百二十余名の園児を我が子として接する先生方のお気持ちを思うと感謝に堪えません。役員会の度に園庭で遊ぶ我が子を見ながら親以上に大変だなあと。先生方と父母の会の輪により、より一層の山名幼稚園の御発展、御繁栄されることをお祈り申し上げます。

杉田伊三雄



▲園舎最後の入園式



▲カルチャーセンターで水泳の練習

山名幼稚園 一社団法人山名幼稚園会が、昭和62年度から、新築移転へ。新築移転へ。山名幼稚園会が、昭和62年度から、新築移転へ。山名幼稚園会が、昭和62年度から、新築移転へ。



▲園舎▼▶



▲新園舎起工式

四月 花と緑の都市づくり整備事業。総事業費一億四千万円、三か年計画で事業がスタート。

七月 市立図書館起工式。

十月 利根川進氏ノーベル医学生理学賞受賞。

理事長 山名 幸吉  
副理事長 山名 幸吉  
学務主任 山名 幸吉  
園長 山名 幸吉  
副園長 山名 幸吉  
事務主任 山名 幸吉  
保健主任 山名 幸吉  
栄養士 山名 幸吉  
保育士 山名 幸吉  
園児 山名 幸吉  
職員 山名 幸吉  
保護者 山名 幸吉  
ボランティア 山名 幸吉  
賛助会 山名 幸吉  
寄付者 山名 幸吉  
協賛者 山名 幸吉  
協力者 山名 幸吉  
関係者 山名 幸吉  
その他 山名 幸吉

▲認可証



# 新園舎建築までのあゆみ

## 「学校法人と新園舎建築」

山名大教会四代会長様は天理の教えを通して、子ども達に夢と希望を与えようと「子供会」を発足させました。時あたかも戦後まもなくの精神的、物質的に乏しかった昭和二十一年八月のことでありました。

その後、青葉日曜学校と改称し、そして山名保育園、山名幼稚園と約四十年の歴史の中で形態を変え拡充されてきたことは、教会の園としてはもとより町の園として根付いてきたに他ならないと思われず。

そこへ昨年、園を学校法人化し公共性、永続性を考慮に入れ教育を進めるよう県の指導がありました。およそ十年前に同じ試みがなされましたが、この度は諸事情もあり本格的に準備を進め、本年二月二十四日に県の認可を得ることになりました。その新事業の第一歩として、赤トタン屋根で長い間親しまれてきた園舎の老朽化のため、この新園舎を建築いたしました。学校法人化を済ませ新園舎に移った現在、一人歩きをするようになりましたが、今まで以上に創設の思いをしっかりと胸に刻んで、一人でも多くの子ども達に喜ばれる園づくりを目指して励んでいきたいと思えます。



▲新園舎工事現場



▲新園舎の地鎮祭

## 「沿革」

- 昭和21年8月 山名大教会構内で「子供会」を発足。
- 昭和21年10月 青葉日曜学校と改称する。
- 昭和24年6月 山名青葉学園、山名保育園の設置。
- 昭和26年3月31日 児童福祉施設山名保育園の認可を受ける。(園長 諸井春子 定員35名)
- 昭和27年10月26日 新園舎落成。(定員90名に増員)
- 昭和32年4月1日 保育園を廃止、(山名幼稚園へ組織替え。(園長 諸井慶徳 定員120名)
- 昭和34年 神苑南側(現園地)に泉水プール完成。
- 昭和36年6月26日 園長、若林まさ子就任。
- 昭和38年4月1日 園長、諸井春子就任。
- 昭和43年2月28日 園児増加に伴い、東園舎(二棟3教室)を建築。
- 昭和52年1月14日 学級増(5学級20名)申請。
- 昭和61年9月1日 園長、若林まさ子就任。
- 昭和62年2月24日 学校法人の認可を県より受ける。(理事長 諸井慶一郎)
- 昭和62年4月21日 新園舎、起工式。
- 昭和62年10月27日 新園舎、竣工。

# はばたけ 山名っ子



●年間の主な行事  
●園の一日

(62年度)

父母の会	年間	毎月	3 学 期	2 学 期	1 学 期
<ul style="list-style-type: none"> <li>・横断歩道旗振 毎日</li> <li>・総会</li> <li>・大掃除</li> <li>・二回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断</li> <li>・予防接種</li> <li>・寄生虫、尿検査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お誕生会</li> <li>・身体測定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入保護者会</li> <li>・卒園式</li> <li>・謝恩会</li> <li>・おひな祭り発表会</li> <li>・おわかれ遠足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お祭り参加</li> <li>・お月見</li> <li>・七五三の祝</li> <li>・落葉ひろい</li> <li>・おたのしみ会</li> <li>・お地場がえり</li> <li>・防火映画</li> <li>・店やさんごっこ</li> <li>・クリスマス会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園式</li> <li>・遠足</li> <li>・交通教室</li> <li>・参観会</li> <li>・父親参観会</li> <li>・いもの苗植え</li> <li>・サラダ作り</li> <li>・七夕さま</li> <li>・花火教室</li> <li>・一泊保育</li> <li>・孫とあそぼう</li> <li>・虫取り</li> <li>・運動会</li> </ul>

お弁当のない日(水・土)		お 弁 当 の 日 (月・火・木・金)					時 間	幼 児 の 活 動				
11:25	11:00	11:00	8:30	14:00	12:30	11:30			11:00	10:00	9:30	9:00
												後かたづけ 自由遊び
												手洗い 入室話し合い
												朝のあつまり 体操
												組別保育 主題による
												絵画製作 音楽リズム
												見学視察 劇ごっこ遊び
												話し合い、その他 自由遊び(戸外)
												手洗い、食事の準備 昼食、後かたづけ
												休息 自由遊び
												後かたづけ 用便、手洗い
												帰りの仕度 反省と明日の連絡
												紙芝居、お話、絵本 降園
												弁当の日と同じ 降園

# 職員写真





豊嶋 裕子

早いもので、山名幼稚園も創立四十周年を迎えられるとのこと、まさに「光陰矢の如し」月日の立つ早さに驚いております。

山名幼稚園も年毎に発展し、まことにおめでたく、心からお祝い申し上げます。

三十年たつた今に比べ、発足当時の園児数は確か七十名程だったように記憶しております。その頃は、一月ともなれば、若林園長先生を先頭に全職員が天理教の法被を身に纏い、寒風すさぶ中をあちこちと園児募集に歩き回ったものでした。

また、園内も閑散としておりましたが、二年後にはピアノが入り、遊具等も一つ一つ整っていき、それがとても嬉しかった事を今に憶えております。

また、土、日曜日と云えば、ほとんどが講習、講演等の勉強でしたし、若林園長先生には公私にわたり、厳しく、また優しく育てのご指導をお受けしました。こと山名での教訓がその後の私の保母生活のしっかりした土台となりました。

山名幼稚園を思い出す時、さつき、紅や梔子の香がまだ目に鼻に残り、また一歩野に出れば、曼珠沙華が一面に咲き乱れておりましたが果たして今はどうでしょうか。

そしてあの梅林は……。

山名幼稚園の今後益々のご発展を祈念いたします。

鈴木 美智子

三年保育を受けた時、今十八才になる私の娘が生まれた。その四月Kちゃんという本当に可愛らしい男の子が三年保育に入園してきた。長男なのでそれはそれは家庭で両親に大事に育てられたので、園になかなか慣れず毎日毎日泣いては送ってくる母さんから離れなかつた。普通は半月位もすると友達も出来先生にも慣れてくるのにKちゃんは一か月過ぎててもまだ泣いては困らせた。その頃の私は生後三か月位なので二階に一人寝かせて私は園に出た。なかなか泣きやまないKちゃんを家の二階に連れて行き「先生の赤ちゃん、お母さんがいなくとも一人で、ねんねしているよ、おりこうさんでしょう、Kちゃんはお兄さんだから泣かないでね」と娘を見せながら話してあげた。その後、Kちゃんは一度も泣くことはなく、毎日幼稚園に来るようになった。そして朝の一言目のあいさつが「先生、赤ちゃんおりこうにねんねしています？」と聞くことだった。今はそのK君も立派に大学を出て社会人になっているそうです。又、A君は園の玄関前で毎朝先生のお出迎えがないと保育室に入ってくれなかつた。ここへ家族で出かけた時必ず、お土産を持って玄関前に駄っ立っていた。そのA君も今は家業を継いで一生懸命働いている。時々配達に来てくれるので「Aちゃん」と声をかけて、ニコリ笑って帰って行く。袋井市内を歩いていると多勢の山名幼稚園の卒園生が目目にかれる。立派な社会人になっ

小野 啓子

青春時代の三年間を山名幼稚園に勤めさせていただきました。昨日の様に思える日々がもう二十余年前の思い出となりました。学校を卒業したばかりで何もわからない私でしたので一つ一つが勉強でありました。まさき先生に「明日この紙芝居をやりませう」と言うと「三十回位は読んでおきなさい」と言われびっくりすると共に、先生の教育に対する熱意と思いの深さを心をつらうたれました。トイレは丁寧にすることを教えられました。トイレは子ども達がどこに手を触れるかも知れないと言われ特に念入りました。当時は若い私達でしたので、時々文句を言いながらでしたが夜いくら遅くなくてもすみずみまでやり月や星を仰ぎながら帰宅した事も今はとてもなつかしく思います。

まさき先生の指導のもとに、微力ながらも力を出しきって勤めさせていただいた三年間、子ども達との愉快な日々、又仲間達との楽しい語らいは、私の青春時代一番の神様からの贈物だと心から感謝しています。



大人、学生の人、御夫婦で子供を連れていてる人、恋人と一緒の人、どの顔もどの顔も小さな時の面影を残している。どの子どもどの子どもにもある大木の様に、みんな、みんな成長してほしいと願ったのもだった。幼稚園の四十年という輝かしい歴史のように、卒園児の皆さんも社会に、そして自分の歴史を残して頂きたいと念じております。

名倉 久江

私が初めて山名に勤めさせて頂いた頃のご父兄は私より随分年上で、若さで押し通してしまふ未熟な保育に対し「先生」という事で黙って協力して下さった皆さんでした。今思えば理論ばかりが先走り、先輩についていくだけの私でした。こんな私が本当の意味で自分の保育を振り返り現実を見直すきっかけはやはり、自分の子供を生み子育てをしてからでした。初めの子供の心がわかり、また保育する厳しさもつかさずとも知らされた様な気がします。どの子ども一人ひとり親の愛情をいっぱい受け、かけがえのない子ども達だということ、そして人格形成を培うこの大事な時期に深く関わっている自分の責任をひしひしと感じたものでした。

私にとって子ども達全てが思い出ですが、あるでき事をつづりながらなつかしさをも一度かみしめたいと思います。

△白いものがチラチラ舞い散る寒い鼓笛練習の朝でした。真っ赤な手を小細みに動かし止

野尻 徳子

この度は山名幼稚園創立四十周年記念おめでとうございます。前園長先生初め若林先生の感激は、いかばかりでしょうか。多勢の卒園児、又入れ変わる諸先生方その都度の御苦勞は、なみ入りたいのものでないかとお差し申し上げます。そんな中にも若林先生は今日までお元気現役で頑張っております。お姿は感無量です。初めて園にお世話になった日にお雛様の絞り方、ほうろくの使い方など母親にも教えてもらわなかったことを沢山覚えて頂きました。

今こうして、お父さんお母さんになった子でも達の顔が目につかびます。特に一泊保育、プール遊び、お芋掘り、などは印象深く生涯忘れることが出来ません。子ども達に思い出を沢山残してもおおうと欲ばった行事に夜遅く帰宅したこともありました。上手に出来たお遊戯会では感激の涙を流しました。私は現在七才の子育てを進行中ですが、今も昔も子育ての原点は変わらないと思います。でも、社会の変化の激しい時代ですので、知識や技術の進歩や変化も激しいのです。そんな中で「ねばり強くやりぬき力」と「思いやり的心」を持つことの出来る人間をめざして毎日を子どもと共に勉強していく覚悟です。

どうぞ諸先生方前園長先生若林先生と共に益々の山名幼稚園の発展を心より祈り申し上げます。そして二十一世紀にふさわしい子ども達をお育て下さい。

面を喰い入る様に見つめ口をギョッと結んで小太鼓を叩くS子ちゃんの姿が目にとまりました。今にも涙がポロポロ溢れパチが手から落ちるのではないかと思われる程でした。それでも懸命にパチを叩くのです。△またある時、T男君に悪い悪いをしつけるつもりが思い余り平手打ちをししまいました。「先生の手も痛かったけどT男君のホッパはもせないでね……もうしないでね……」最後は言葉にならず抱き合って一緒に泣いてしまいました。

私は子ども達から物事に真剣に取り組み姿勢を学び子ども達と一緒に育っていく自分を感しました。幾年か育んだ日々思いを寄せ小学生、中学生……と成長していく子ども達姿を見、話を傾ける。それは保育に携わる一人としてこの上ない喜びです。これからも自分の人生の歩みの中に幼稚園の思い出の灯がいくつも点りますよう精進してまいります。

—未知の力を秘めた子ども達、パンサイノ—



三十三年度卒園 久野 博 敏

山名幼稚園の思い出と言っていますが、かれこれ三十年近く前の事ですから、幼稚園で毎日どんな生活を送っていたのか詳しくは思い出せません。ただ、西園舎は私が通っていた時と少し変わっていません。変わった所と言えは門です。あの頃は黒い大きな木造の門で、両側に開く大きな扉がついていました。その扉に乗ってよく遊んだものでした。園庭の砂場も、大きな木も昔と同じです。

父親参観の折、園舎の中に入ると二十年前にタイムスリップし、自分が父親でなく園児にもどった様に錯覚した事もあります。講堂にもどった思い出です。その頃の私はいたずら小僧で、ある日、現在の園長先生である、まさ子先生に、講堂の舞台の両端に、老虎のめんちゃんと二人で座らされた事がありました。子ども達には内緒の話ですね。

親子二代で同じ幼稚園に通える事はとても幸せです。自分が作った思い出の場所が我が子達が同じように楽しい思い出を作っている。たまに嬉しいう事です。

親子にとっても多くの楽しい思い出の詰まった幼稚園を取りこわされると思うと少し寂しく思いますが、新制山名幼稚園で、園長先生をはじめ、熱心な先生方のご指導のもと、次の時代を担う子ども達が、元氣よく遊び、学び、楽しい思い出を胸に翔びたつ姿を羨しみにしております。そして、今迄にも増して地域に愛される山名幼稚園でありますよう祈りいたしております。

四十五年度卒園 高尾 ゆか

私は、男の子として生まれた方が正しかったのではないかと考えるほど、先生方を困らせたので、夏のプールでは大変なものでした。今でも泳げない子供達を指導する立場になりましたが、その時はまだ、大きなお氣に入りの赤い浮輪が離せないはずなのに、自分より年上の男子の子が飛び込んで泳ぐ姿を見て、浮き輪を投げ捨て同じように飛び込んでいたのです。結果は……。あの時、先生に助けを求めたかなと思ったら、今の私はなかったことでしょうか。（今でこそ、笑い話ですが）

そんなことがありまして、泳ぐことを練習するようになり、水泳が人並より、チョロピリ、得意となったのです。そして、おやまのお引き合わせもあったのかもしれない。私は、おちば、にある天理大学に進学することが出来た。本当に人生は楽しくできているのだと思います。こうして、学歴の始めと終りを天理で過ごすことが出来たことも、おやさまのおおえなのおかげでしょうか。



ゆう具で遊んでいました。だけど、こんど園しやがかわると、ゆう具もあっちの方に行つて、しまゆかもしれないとお母さんから、きかされて、いやな気持ちになりました。

わたしは、まだ遊びたいゆう具がたくさんありますし、これから妹や弟と遊ぶものがなくなるなどといつも考えてしまっています。妹や弟はようちえんにはいって、いいなあと思つた、ゆう具がせめて二こ三こぐらいのこつていたらなあなどと、考えてしまっています。

でも、ようちえんの子たちは場所がかわり、きれいな園しやになって、よかつたと思つているのでしょうか。わたしがいまようちえんには、はいってればよかつたのになあ。

六十一年度卒園 やまぐちれむと

いちばんのしやつたことは、いっぽくほいけようちえんにとまつたことです。みんなであかえをつつたこと。ほくは、たまねぎをきつてめがいたかつたけど、たのしかつたよ。おふるにはいって、はなびをやっておどつたよ。はなびがきれいだったよ。おじばがえりのときのときは、こだいがおもたつてつくれたけどじょうずにできてよかつた。だいがつのはなのあなをとつてきたよ。しかのせんべいをかつてしかにあげたよ。しかが、ありがとうがとうとつてあたまをさげたよ。でもしやしんとつきにげちやつたよ。

くりすますにさんたくろうすきたよ。に

五十五年度卒園 高橋えりか

私は今、中学一年生です。生まれてから、十三年の間には、ずいぶん多くの人と出会いました。私が初めて大勢の友達に出会ったのは山名幼稚園の頃です。

山名幼稚園には、明るく元氣な大勢の友達と、やさしく厳しい先生がいていろいろな事をたくさん経験しました。厳しい練習をくり返して出来あがった鼓笛演奏は、その中で友達と協力すること、みんなで一つのことをなしとげる喜び、がまんして努力することなど私達にいろいろなことを教えてくれました。狭い庭での運動会もその頃の私達にとってはとても広い陸上競技場でした。いつも先生方が温かくご指導して下さいました。毎日でした。何と言ってもおちばは帰りは、忘れられない楽しい思い出でした。山名幼稚園のいろいろな楽しい経験を通してたくさん友達が出来たのですが小学校入学と同時に私達は仲良しの友達とはなればなれになってしまいました。山名幼稚園には、市内のあちこちから通園していましたが、小学校は地区別になつてしまふからです。でも私達は、また新しい小学校でも新たな良い友とめぐり会い小学校六年間を過ごしました。

そして中学生となつた今、私は袋井中学でいく人かの山名幼稚園時代の友と再会することが出来ました。そして笑いながら、なつかしい幼稚園時代を思い出して、語り合っています。これからも、山名の友です。

これからも、多くの友を大切にして、生きていきたいです。

かいたまのころからはいってきたよ。となかいはやねのうえでまつたよ。さんたくろうすがつれせんをとくれた。きょうかのおじさんにてたけど、となかいはほんとうにいたのになあ。

六十一年度卒園 山田美和子

ねんちようになつてこてきはじめてるとき、ばとんになりたかつたのが、ばとんになれたから、うれしかったよ。

おちばがえりてでんりにいってこてきをやるとき、べるとをやるころをはたいたにやちやつたよ。それでまた、やりなしたよ。さやちゃんといつしよのへやになれてうれしかったよ。みんながおきてるときみんなであまらなげましたよ。とてまたのしやつたよ。それでよるねるときならせんせいよこにていてくれて、そうしたらねちやつたよ。ならこうえんでしかおせんべいをあげようちやつたよ。それでよしひろくでこわくてうづにしかおせんべいをあげていたよ。でもわたしはしかがくるとこわくてにげまわっていたよ。

ねんちうのときうんどうかいではじめていちばんになりました。それでねんちうのときは、にかいらいいちばんをとりました。それでわたしはうんどうかいがとてまじすきです。

三十三年度卒園 久野 博 敏

山名幼稚園の思い出と言っていますが、かれこれ三十年近く前の事ですから、幼稚園で毎日どんな生活を送っていたのか詳しくは思い出せません。ただ、西園舎は私が通っていた時と少し変わっていません。変わった所と言えは門です。あの頃は黒い大きな木造の門で、両側に開く大きな扉がついていました。その扉に乗ってよく遊んだものでした。園庭の砂場も、大きな木も昔と同じです。

父親参観の折、園舎の中に入ると二十年前にタイムスリップし、自分が父親でなく園児にもどった様に錯覚した事もあります。講堂にもどった思い出です。その頃の私はいたずら小僧で、ある日、現在の園長先生である、まさ子先生に、講堂の舞台の両端に、老虎のめんちゃんと二人で座らされた事がありました。子ども達には内緒の話ですね。

親子二代で同じ幼稚園に通える事はとても幸せです。自分が作った思い出の場所が我が子達が同じように楽しい思い出を作っている。たまに嬉しいう事です。

親子にとっても多くの楽しい思い出の詰まった幼稚園を取りこわされると思うと少し寂しく思いますが、新制山名幼稚園で、園長先生をはじめ、熱心な先生方のご指導のもと、次の時代を担う子ども達が、元氣よく遊び、学び、楽しい思い出を胸に翔びたつ姿を羨しみにしております。そして、今迄にも増して地域に愛される山名幼稚園でありますよう祈りいたしております。

五十三年度卒園 諸井こみち

私が山名幼稚園を卒園してからもう八年もたちます。

来年になれば高校生です。そんな私の幼稚園での思い出はたくさんありますが、その中でも印象に残っているのは、一泊保育とひな祭りのお遊戯会です。

一泊保育は、団体で生活することでは、初めての体験だったので、うれいような心配なような気持ちでいっぱいでした。でも夜、花火などをして楽しく過ごしました。

ひな祭りのお遊戯会の時は、大勢の人の前でのおどりで、ものすごく緊張したことを覚えています。

それでもおどった時は、失敗しないでできたことがすごくうれしくて、始まる前の緊張感は、どこかにいってしまいました。

これから幼稚園は新しい場所に移り建物も立派なのに変わりますが、いつまでも昔とかわらず楽しい幼稚園でいてほしいと思います。

五十八年度卒園 柴本 勢子

わたしは、ようちえんのときから、この山名ようちえんのゆう具が好きでした。

ようちえんに行つてから、朝の会が始まるまでや家へ帰るまでの時間はだいたい、外の



大地の大きなキャンパスに  
夢を描く園児たち…

園児たちの夢は

大きなうさぎになつて

もう走り出そうとしている

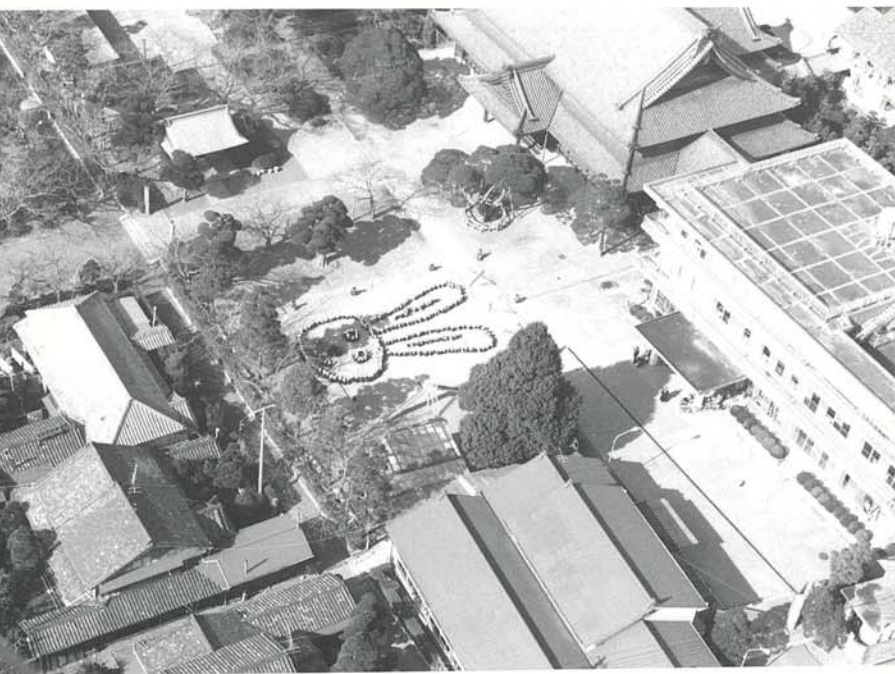
そして

どこまでも走り続けるがいい

人生の果てしない道を

夢を追つて

どこまでもどこまでも…



● 編集後記

ここに山名幼稚園創立四十周年の記念すべき佳節を迎えることができましたことを、およろこび申し上げます。

本年二月、四十周年の記念事業として、記念誌を発刊することが決まりました。

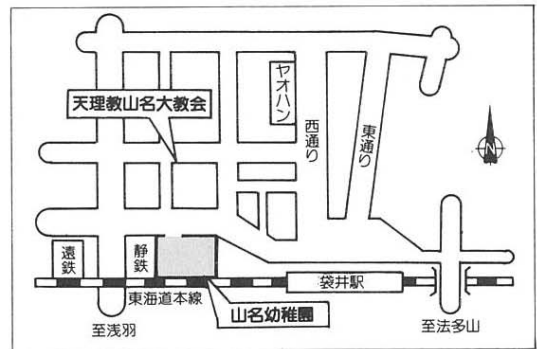
その後、編集委員会が設置され内容等について種々検討してまいりましたが、ここに完成のはこびとなりました。

本誌の編集にあたっては、幼稚園はじめ多くの方々のご協力をいただき、卒園児の写真についてもすべて掲載することができました。四十年という長い歳月を記録にのこすことは、極めて困難であり満足のいく編集ができませんでした。

しかし、山名幼稚園が今日まで地域社会に果たしてきた役割が、四十年のあゆみを通してご理解いただけるものと存じます。

編集にあたり、多くの方のご協力をいただいたことに対し、心からお礼申し上げます。

このたび、園舎の改築と併せ、六十二年四月から学校法人山名幼稚園として再出発をしています。四十年をひとつの節目として、山名幼稚園の一層の発展を念願するものであります。



編集委員	
委員長	高橋 桂一
副委員長	山田 英二
委員	名倉 正一
〃	鈴木 和彦
〃	豊田 和子
〃	市川優美子
〃	若林まさ子
〃	永井 善文
〃	海野美恵子

学校法人山名学園 山名幼稚園

創立40周年記念

昭和六十二年十二月十日発行

● 発行

学校法人山名学園 山名幼稚園

静岡県袋井市三門町八番地の一

電話(〇五三八)四二一三三二二

● 企画・編集

創立40周年記念誌編集委員会

● 印刷

(株)デザインオフィスエム・エス・シー